



ブルー・デージの被害花



ペチュニアの被害花



ミカンキイロアザミウマ成虫

〈ミカンキイロアザミウマ〉

学名：Frankliniella occidentalis Pergande

1. 被害

北多摩の施設花き類に発生した。幼虫や成虫が、花き等の花卉や新葉を吸汁するため、花卉や葉に白斑を生じたり萎縮する。

2. 生態

本種は極めて多種の植物に寄生する。卵は花や葉の組織内に産みつけられ、孵化幼虫は花卉、新芽、新葉を好んで吸汁加害し、土中で前蛹となり、成虫になると再び幼虫と同様の加害をはじめめる。雌は1頭につき150～300個の卵を産む。

3. 防除

- 1) 未発生地では苗の移動による持ち込みに注意する。
- 2) 被害株は直ちに除去する。
- 3) 圃場や施設の周辺部の雑草を除去する。
- 4) シクラメンでは発生初期にカルタップ水溶剤及びチオシクラム水和剤の1,000倍液散布が有効であるが、本剤は薬害を生じやすいので注意する。

4. 記事

本種は1993年4月、北多摩の施設で発生した。